

(令和5年度) 長久手市子育てアンケート調査 結果報告書 概要版

■ 1 調査概要

(1) 就学前児童保護者調査

調査対象	長久手市在住の就学前児童の保護者（無作為抽出）		
調査期間	令和5年12月6日～令和5年12月28日		
調査方法	郵送配布、郵送回収及びWeb回答		
回収状況	配布数	回収数	回収率
	2,000 件	884 件 (うちWeb回答: 358 件)	44.2%

(2) 小学生保護者調査

調査対象	長久手市在住の小学生の保護者（無作為抽出）		
調査期間	令和5年12月6日～令和5年12月28日		
調査方法	郵送配布、郵送回収及びWeb回答		
回収状況	配布数	回収数	回収率
	2,000 件	866 件 (うちWeb回答: 317 件)	43.3%

※調査結果の数値は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で表記しています。
ただし、年代別や経年変化などの母数が異なるものを比較する場合は、割合の差（ポイント）で表記しています。
※集計は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、回答比率の合計が、100.0%にならない場合があります。また、複数回答可の質問では、回答者数（n）に対する回答比率のため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。

【(1) 就学前児童保護者調査】

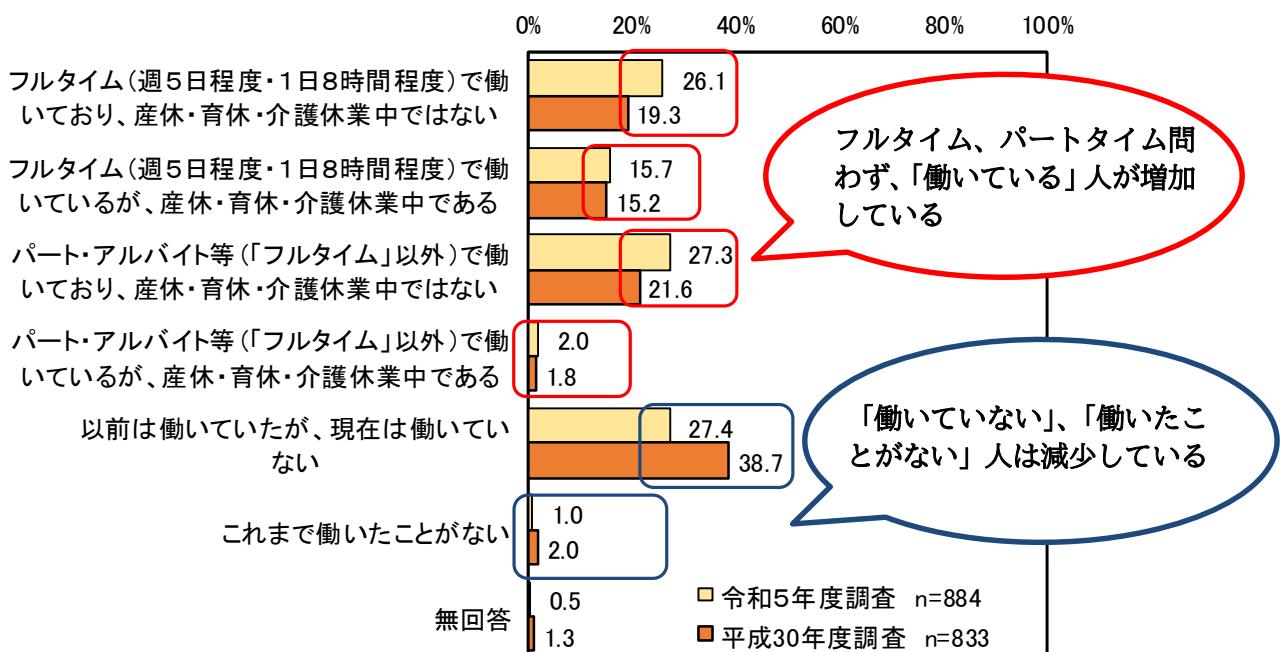
■ 2 調査結果について

(1) 就学前児童保護者調査

① 母親の就労状況について【P.20 間9】

- ・「母親の就労状況」について、「現在働いている（育休・産休含む）」の割合が、前回計画策定時の平成30年度調査結果（以降「前回調査結果」という）と比べると増加しており、特に「フルタイム（育休・産休ではない）」は6.8ポイント、「パートタイム（育休・産休ではない）」は5.7ポイント増加している。
- ・一方、「以前は働いていたが現在は働いていない」・「これまで働いたことがない」の割合はともに減少している。このことから、前回調査時に比べて女性就業率が高まっていることが分かった。

◇母親の就労状況

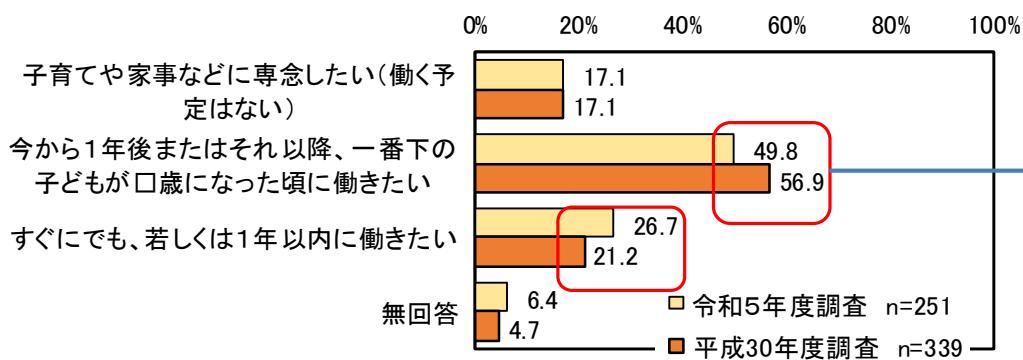


【(1) 就学前児童保護者調査】

② 現在、働いていない母親の「今後の就労希望」について【P.28 問12】

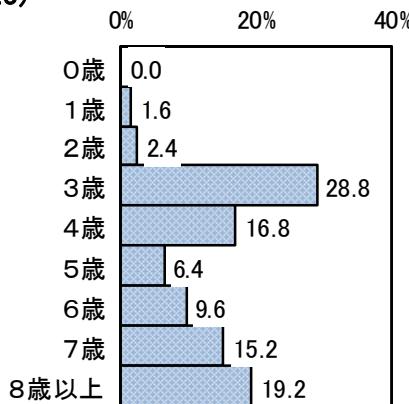
- ・問9で「以前は働いていたが、現在は働いていない」または「これまで働いたことがない」と回答した母親に対して、「今後の働きたい希望」を質問している。
- ・「1年より先、一番下の子どもが□歳になった時に働きたい」の割合が49.8%と最も多く述べたが、前回調査結果と比べると7.1ポイント減少している。また、「□歳」に入る年齢として、「3歳」の割合が28.8%で最も多く、2番目に「8歳以上」の割合が19.2%、3番目に「4歳」の割合が16.8%となっていた。このことから、下の子の就園時、就学時と就学後の1年の間のタイミングに合わせて就労を考える保護者が多い傾向にあることが分かった。
- ・前回調査結果と比べ、「すぐにでも、若しくは1年内に働きたい」の割合が5.5ポイント増加しており、働いていない母親の就労希望は強くなっていると考えられる。

◇現在働いていない母親の今後の就労希望



◇就労予定の目安になる子どもの年齢
（「今から1年後またはそれ以降、一番下の子どもが□歳になった頃に働きたい」と回答した方）

(n=125)



【(1) 就学前児童保護者調査】

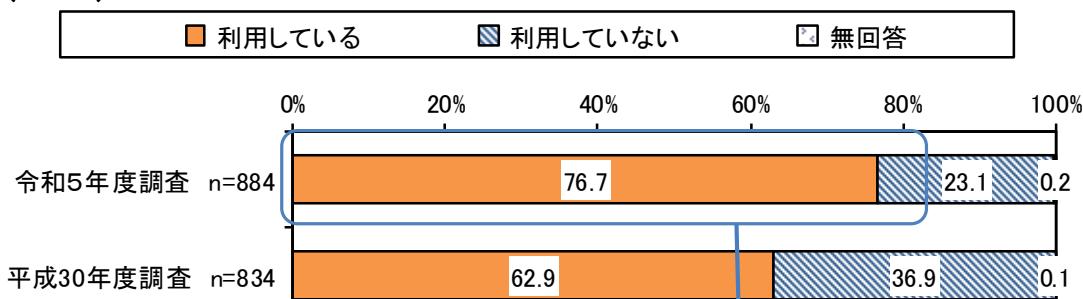
③ 平日の定期的な幼稚園・保育所などの利用について

【P.32、33 問13、問13-1】

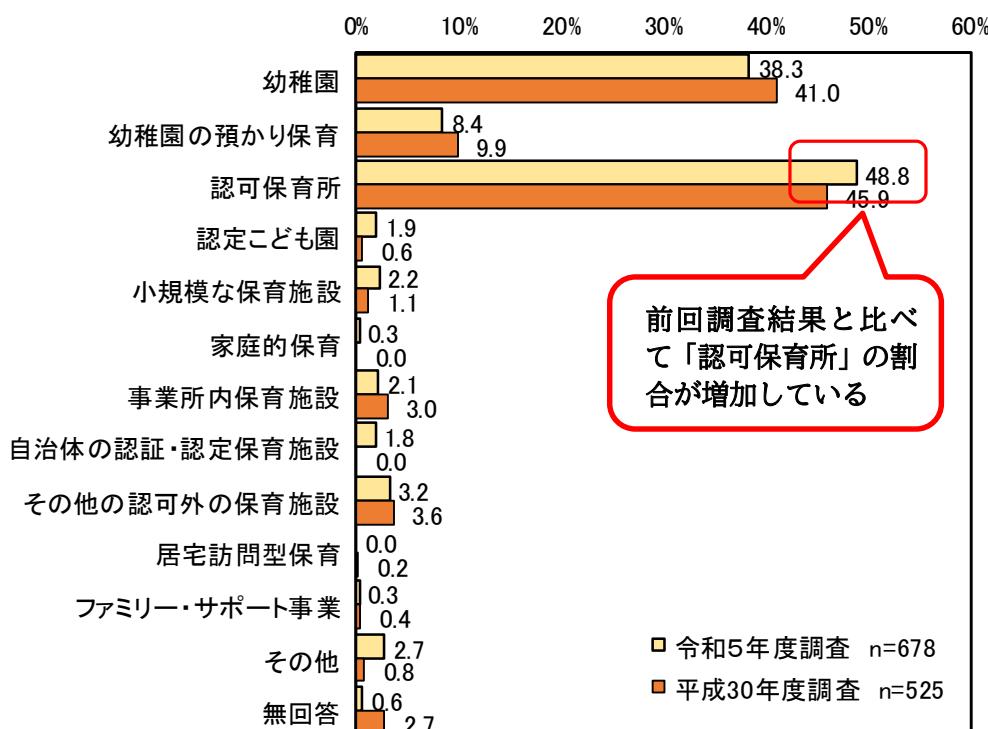
- ・保育園や幼稚園を「利用している」割合が76.7%、「利用していない」割合が23.1%であり、前回調査結果と比べて「利用している」割合が13.8ポイント増加している。
- ・「利用している」と回答した人の事業利用状況を見てみると、前回調査結果と比べて「幼稚園」が減少し、「認可保育所」が増加している。このことから、「認可保育所」での保育ニーズが増加傾向にあることが分かった。

◇利用状況

(n=884)



◇利用している事業

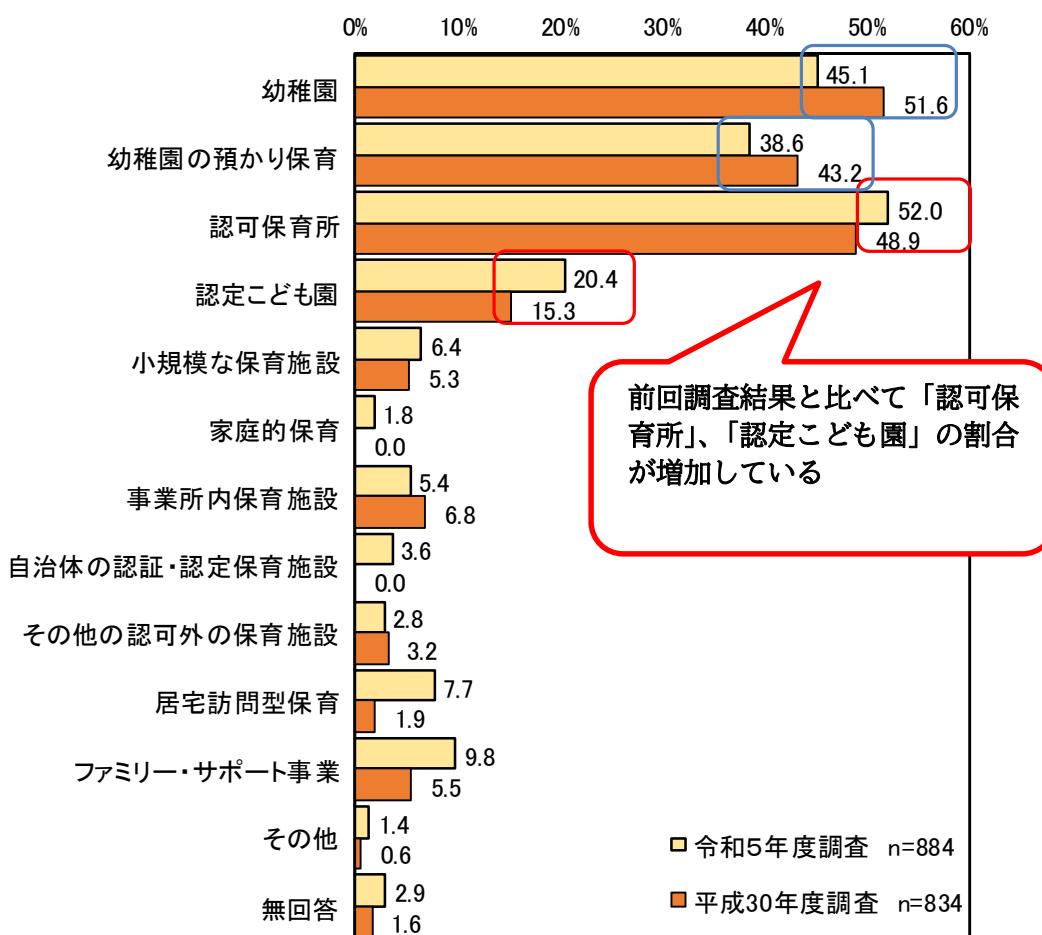


【(1) 就学前児童保護者調査】

④—1 現在、利用している、利用していないにかかわらず、「定期的に」利用したい事業について【P.40 間14】

- ・「認可保育所」の割合が 52.0%と最も高く、次いで「幼稚園」の割合が 45.1%、「幼稚園の預かり保育」の割合が 38.6%、「認定こども園」の割合が 20.4%となっている。
- ・前回調査結果と比べて、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」の割合は約 5～6 ポイント程度減少している一方、「認可保育所」、「認定こども園」の割合は約 4～5 ポイント程度増加している。このことから、主に保育所における保育ニーズが増加していることが考えられる。

◇利用したい事業

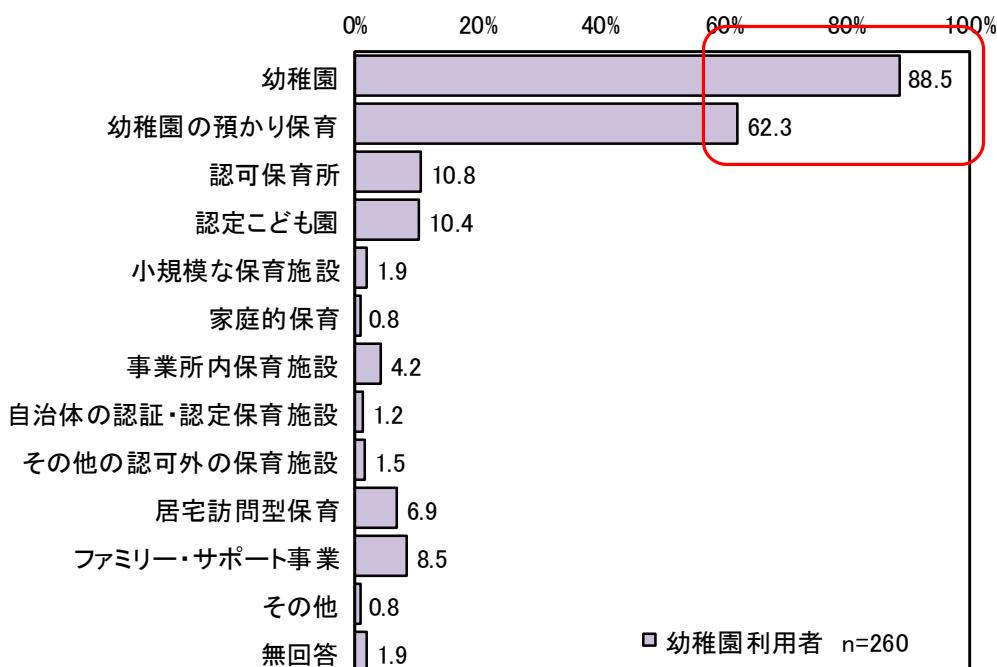


【(1) 就学前児童保護者調査】

④—2 現在、幼稚園を利用している人の中で、「定期的に」利用したい事業について

- ・「幼稚園」の割合が 88.5%と最も高く、次いで「幼稚園の預かり保育」の割合が 62.3%となっている。
- ・幼稚園利用者は、引き続き幼稚園の利用または幼稚園の預かり保育の利用意向が高いが、認可保育所や認定こども園の利用意向も 1 割程度ある。

◇利用したい事業（幼稚園利用者のみ）

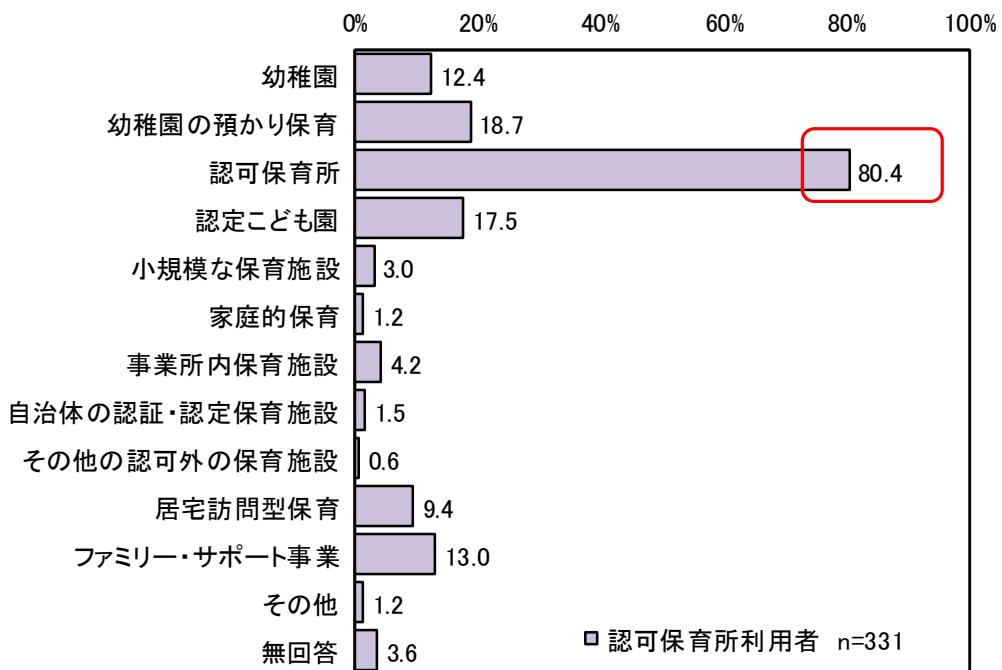


【(1) 就学前児童保護者調査】

④—3 現在、認可保育所を利用している人の中で、「定期的に」利用したい事業について

- ・「認可保育所」の割合が 80.1%と最も高くなっている。
- ・認可保育所利用者は、引き続き認可保育所の利用意向が高いが、幼稚園や認定こども園の利用意向も 2割程度ある。

◇利用したい事業（認可保育所利用者のみ）

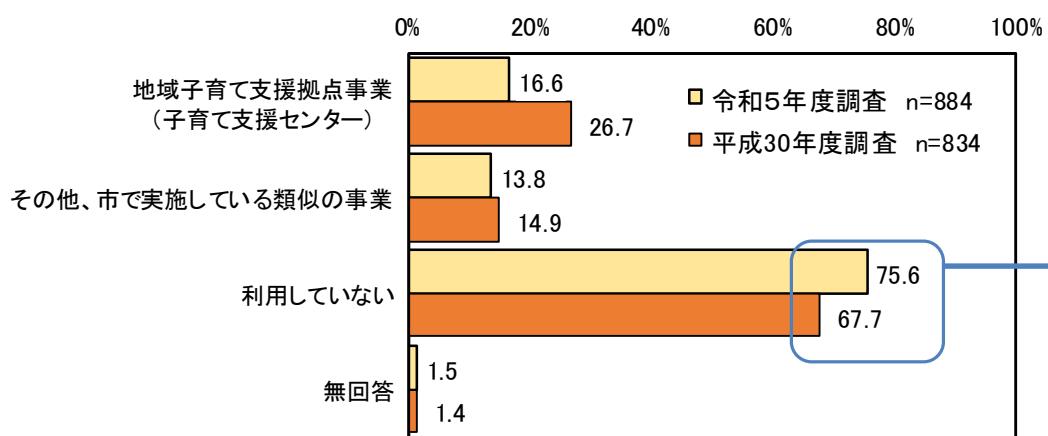


【(1) 就学前児童保護者調査】

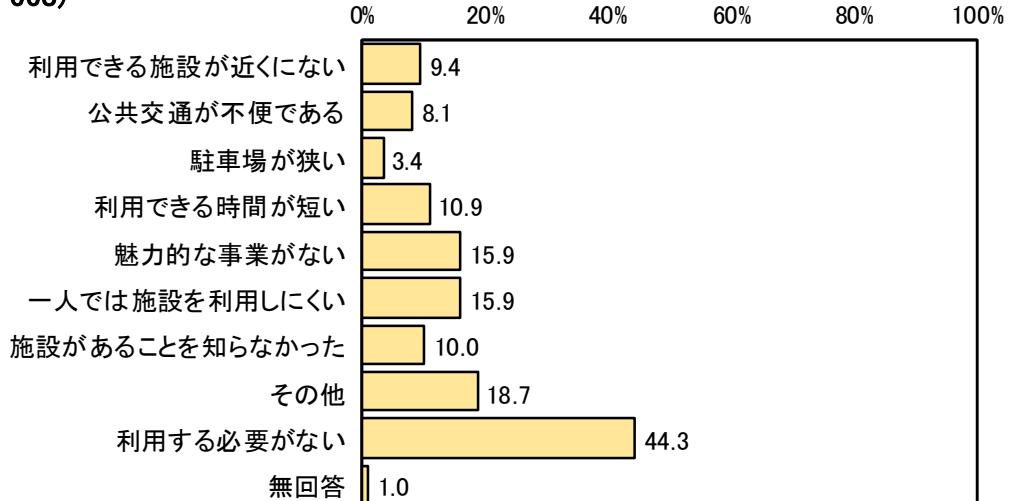
⑤ 地域子育て支援拠点事業の利用について【P.43 問17】

- ・「利用していない」の割合が75.6%で最も多くなっている。
- ・前回調査結果と比べてると、「利用していない」の割合が7.9ポイント程度増加している。
- ・利用していない理由については、「利用する必要がない」の割合が44.3%で最も多く、次いで「魅力的な事業がない」と「一人では施設を利用しにくい」の割合がともに15.9%、「利用できる時間が短い」の割合が10.9%となっている。「利用する必要がない」を除くと、利用のしにくさが主な理由として挙げられている。

◇地域子育て支援拠点事業の利用状況



◇地域子育て支援拠点事業を利用していない理由 (n=668)

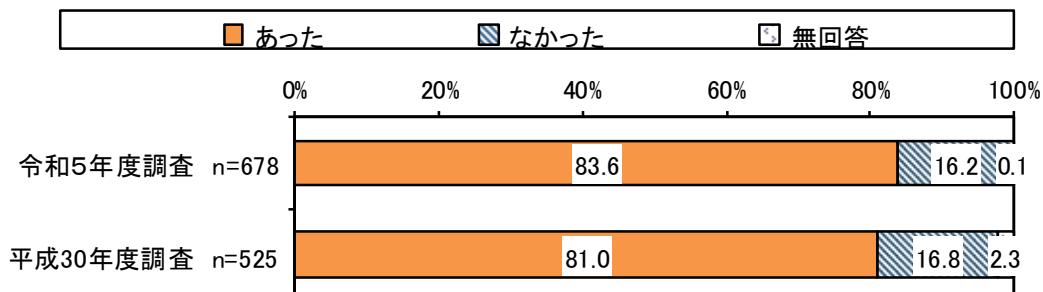


【(1) 就学前児童保護者調査】

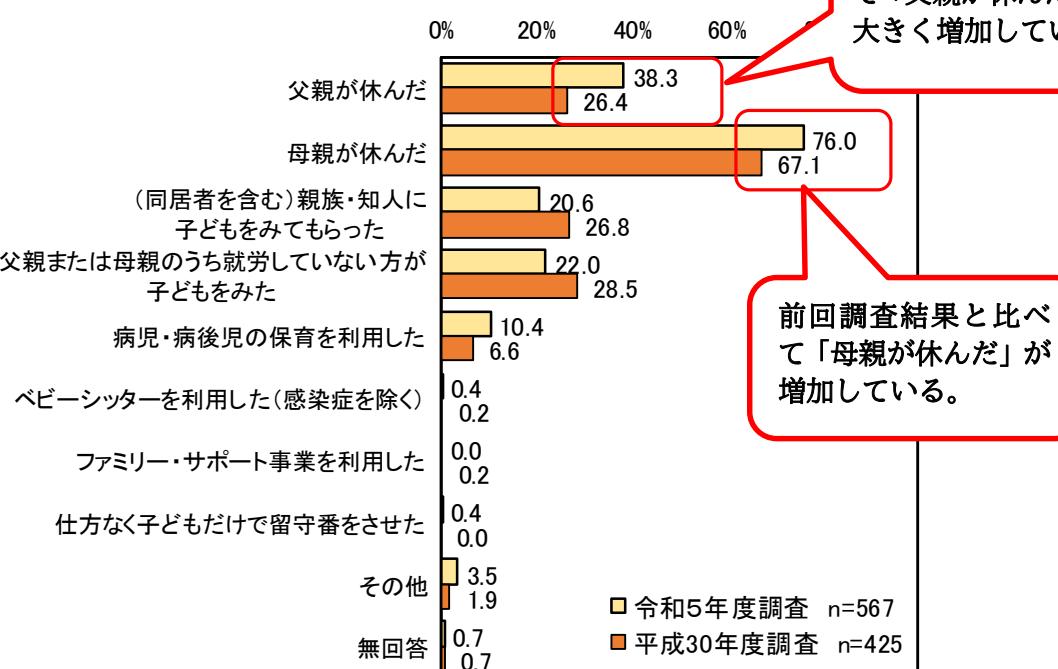
⑥ 子どもが病気になったときの対応について【P.68 問22】

- ・病気やケガで普段利用している幼稚園や保育所などが利用できなかつたことは、「あつた」の割合が 83.6%、「なかつた」の割合が 16.2%となつてゐる。
- ・前回調査結果と比べると、大きな差はみられない。
- ・幼稚園や保育所などが利用できなかつたときの対処方法は、「母親が休んだ」の割合が 76.0%で最も多く、次いで「父親が休んだ」の割合が 38.3%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が 22.0%、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらつた」の割合が 20.6%、「病児・病後児の保育を利用した」の割合が 10.4%となつており、母親が休んで対応するケースが非常に多いことがうかがえる。
- ・前回調査結果と比べると、「母親が休んだ」の割合が 9.1 ポイント増加してゐる。また、「父親が休んだ」の割合が 11.9 ポイントと大きく増加してゐる。

◇病気やケガで幼稚園や保育所などが利用できなかつたこと



◇幼稚園や保育所などが利用できなかつたときの対処方法

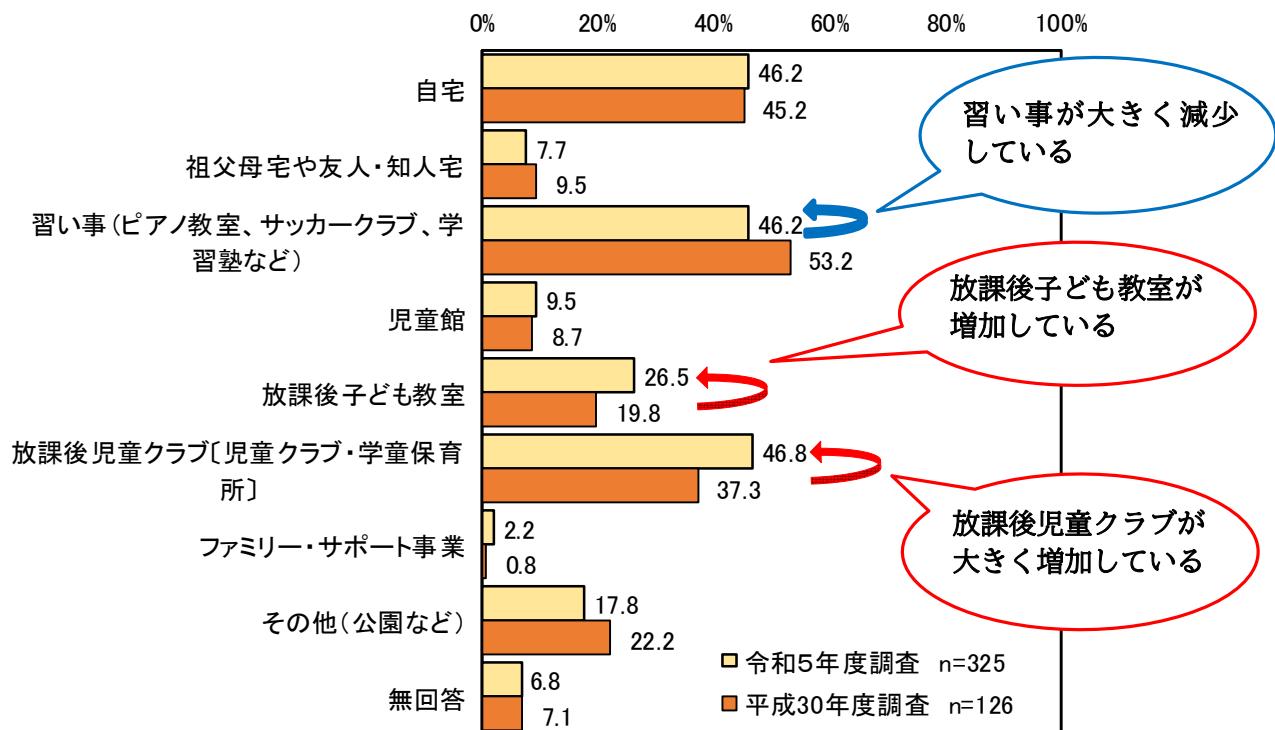


【(1) 就学前児童保護者調査】

⑦ 小学校へ入学後の、放課後の過ごし方について（5、6歳児を抽出） 【P.91 間26】

- ・「放課後児童クラブ〔児童クラブ・学童保育所〕」の割合が46.8%で最も多く、次いで「自宅」と「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合がともに46.2%、「放課後子ども教室」の割合が26.5%となっている。
- ・前回調査結果と比較すると、上位回答率の「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が下がっているが、「放課後児童クラブ〔児童クラブ・学童保育所〕」や「放課後子ども教室」の割合が増加していることが分かる。このことから、放課後の子どもの預かり機能のニーズが高まっていることが分かった。

◇小学校入学後、低学年時の放課後の過ごし方の希望



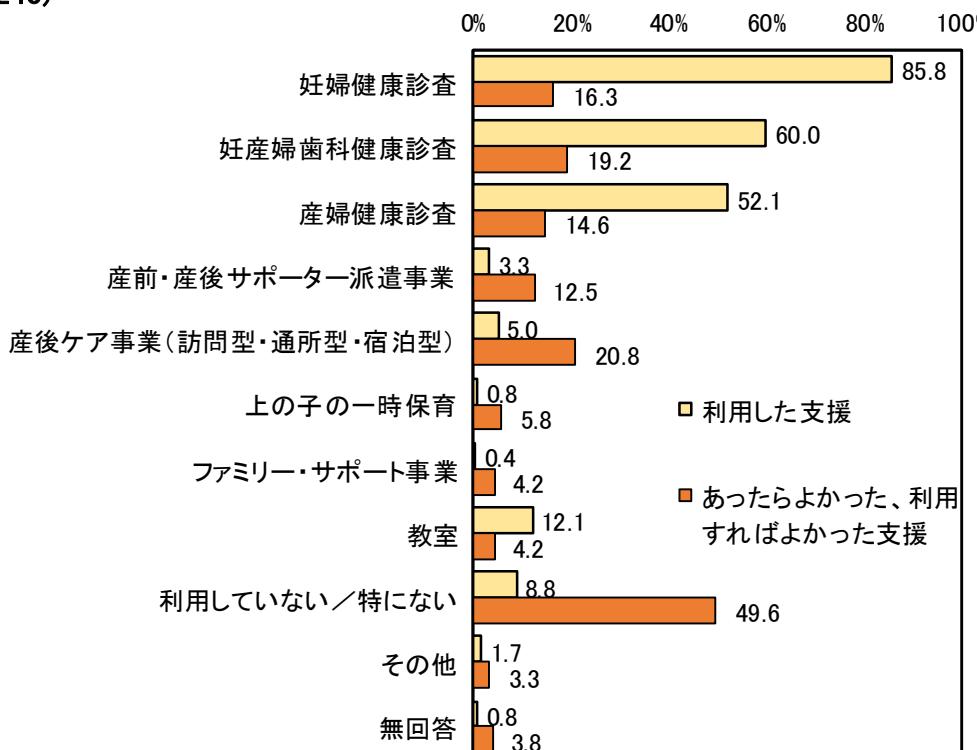
【(1) 就学前児童保護者調査】

⑧ 妊娠・出産期の支援について（3歳未満のみ） 【P.115 間41、P.116 間42】

- ・妊娠・出産期に利用した支援は、「妊婦健康診査」の割合が 85.8%で最も多く、次いで「妊産婦歯科健康診査」の割合が 60.0%、「産婦健康診査」の割合が 52.1%、「教室」の割合が 12.1%となっている。
- ・妊娠・出産期にあったらよかった、利用すればよかった支援は、「産後ケア事業（訪問型・通所型・宿泊型）」の割合が 20.8%で最も多く、次いで「妊産婦歯科健康診査」の割合が 19.2%、「妊婦健康診査」の割合が 16.3%、「産婦健康診査」の割合が 14.6%、「産前・産後センター派遣事業」の割合が 12.5%となっている。

◇妊娠・出産期に利用した支援／あったらよかった、利用すればよかった支援

(n=240)



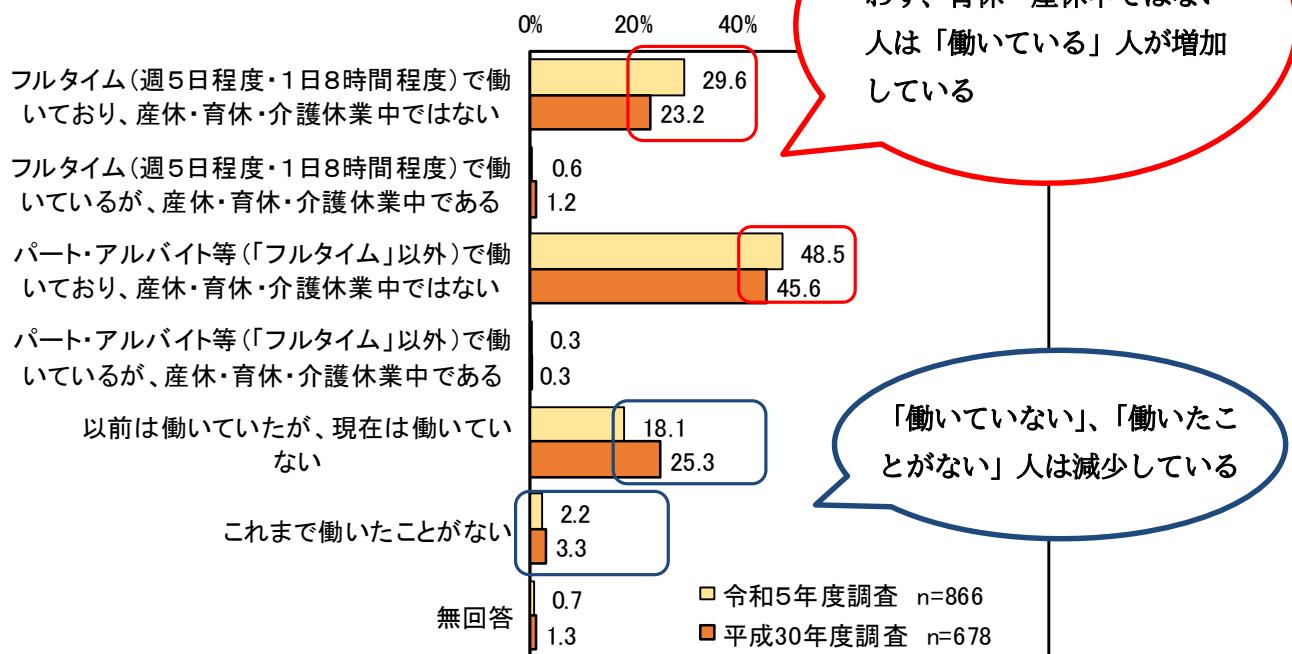
【(2) 小学生保護者調査】

(2) 小学生保護者調査

① 母親の就労状況について【P.20 問9】

- ・「母親の就労状況」について、「現在働いている（育休・産休含む）」の割合が、前回計画策定時の平成30年度調査結果（以降「前回調査結果」という）と比べると増加しており、特に「フルタイム（育休・産休ではない）」は6.4ポイント、「パートタイム（育休・産休ではない）」は2.9ポイント増加している。
- ・一方、「以前は働いていたが現在は働いていない」・「これまで働いたことがない」の割合はともに減少している。このことから、前回調査時に比べて女性就業率が高まっていることが分かった。

◇母親の就労状況

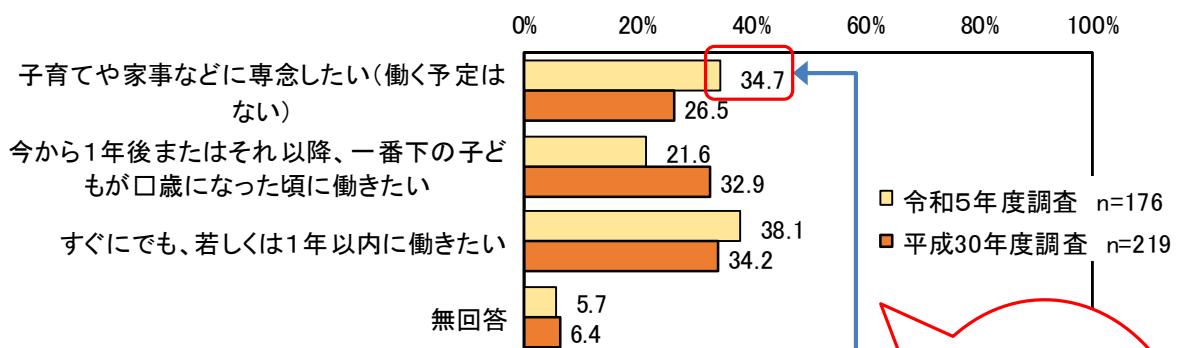


【(2) 小学生保護者調査】

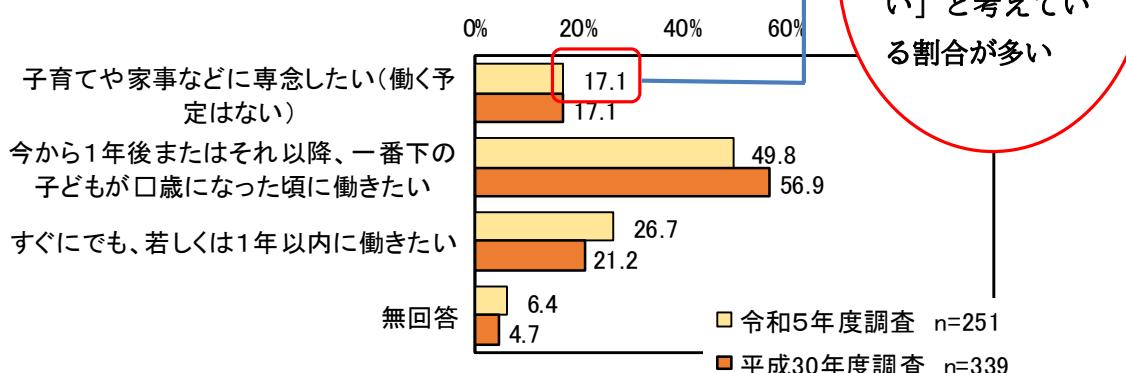
② 現在、働いていない母親の「今後の就労希望」について【P.28 問12】

- ・問9で「以前は働いていたが、現在は働いていない」または「これまで働いたことがない」と回答した母親に対して、「今後の働きたい希望」を質問している。
- ・「すぐにでも、若しくは1年以内に働きたい」の割合が38.1%と最も多い回答であり、前回調査結果と比べると3.9ポイント増加している。
- ・一方、「子育てや家事などに専念したい（働く予定はない）」の割合が34.7%と前回調査結果と比べて8.2ポイント増加している。就学前保護者向け調査と比べると2倍以上の割合となっており、調査対象者の子どもが小学生になることで母親の就労希望が変化することがうかがえる。

◇現在働いていない母親の今後の就労希望（小学生）



◇現在働いていない母親の今後の就労希望（就学前）



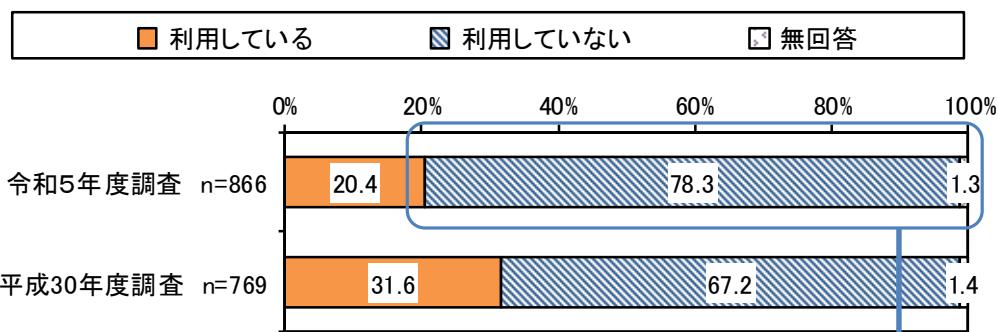
就学前保護者よりも「子育てなどに専念したい」と考えている割合が多い

【(2) 小学生保護者調査】

③ 児童館の利用について【P.57 問13】

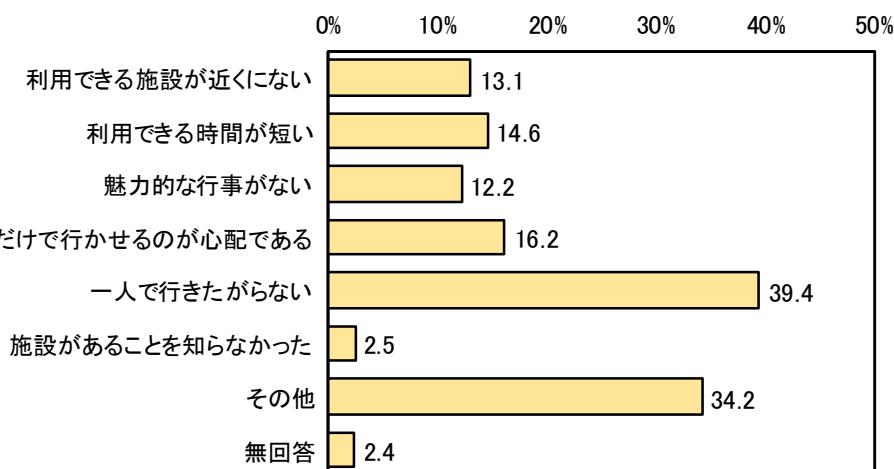
- ・「利用している」の割合が 20.4%、「利用していない」の割合が 78.3%となっている。
- ・前回調査結果と比べてると、「利用している」の割合が 11.2 ポイント程度減少している。
- ・利用していない理由について、「一人で行きたがらない」の割合が 39.4%で最も多く、次いで「子どもだけで行かせるのが心配である」の割合が 16.2%、「利用できる時間が短い」の割合が 14.6%、「利用できる施設が近くにない」の割合が 13.1%、「魅力的な行事がない」の割合が 12.2%となっている。
- ・また、「その他」の意見として「(以前は利用していたが、) 高学年なので利用していない」、「行く時間がない(習い事をしている等)」「放課後児童クラブ(学童)に通っている」「外遊びの方が好き」などが挙げられている。

◇児童館の利用状況



◇児童館を利用していない理由

(n=678)

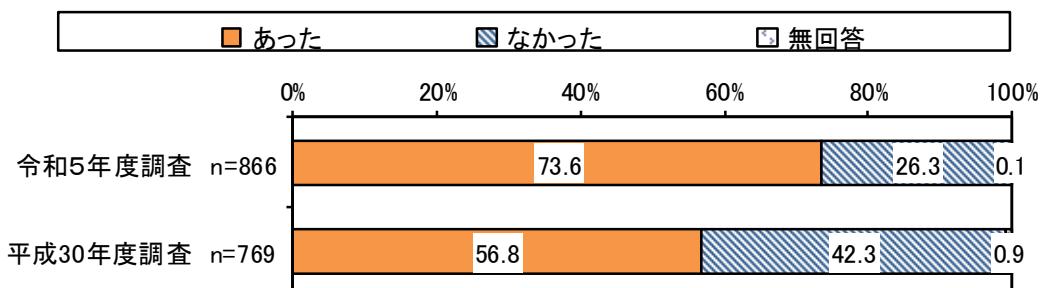


【(2) 小学生保護者調査】

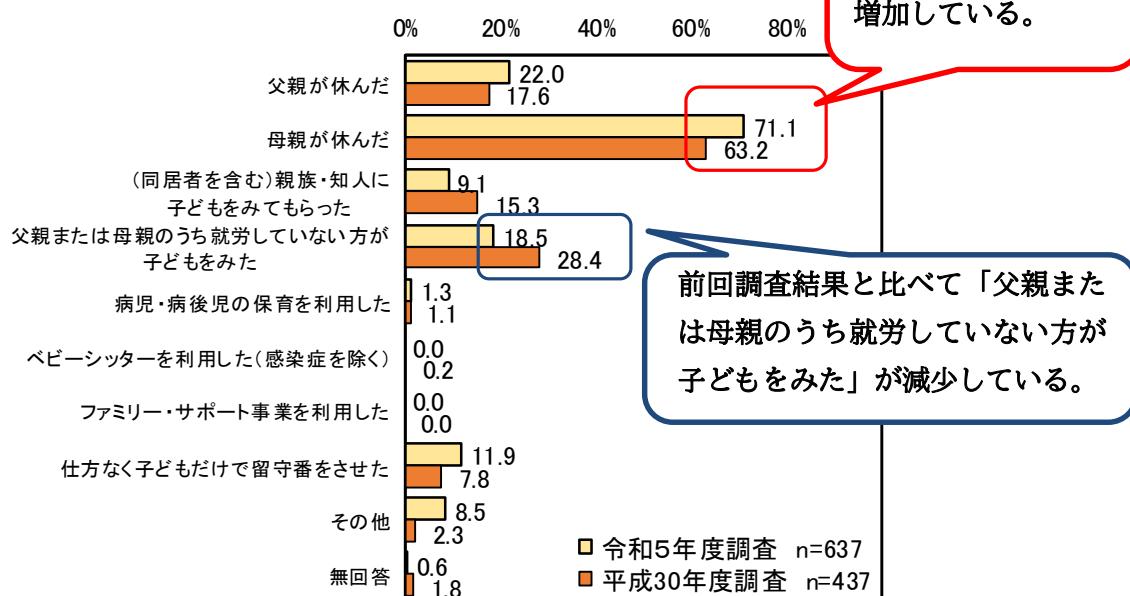
④ 子どもが病気になったときの対応について【P.73 問16】

- ・病気やケガで小学校への登校ができなかつたことは、「あった」の割合が73.6%、「なかった」の割合が26.3%となっている。
- ・前回調査結果と比べると、「あった」の割合が16.8ポイント増加している。
- ・小学校への登校ができなかつたときの対処方法は、「母親が休んだ」の割合が71.1%で最も多く、次いで「父親が休んだ」の割合が22.0%、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が18.5%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」の割合が11.9%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」の割合が9.1%となっており、母親が休んで対応するケースが非常に多いことがうかがえる。
- ・前回調査結果と比べると、「母親が休んだ」の割合が7.9ポイント増加している。また、「父親または母親のうち就労していない方が子どもをみた」の割合が9.9ポイント減少している。

◇病気やケガで小学校への登校ができなかつたこと



◇幼稚園や保育所などが利用できなかつたときの対処方法



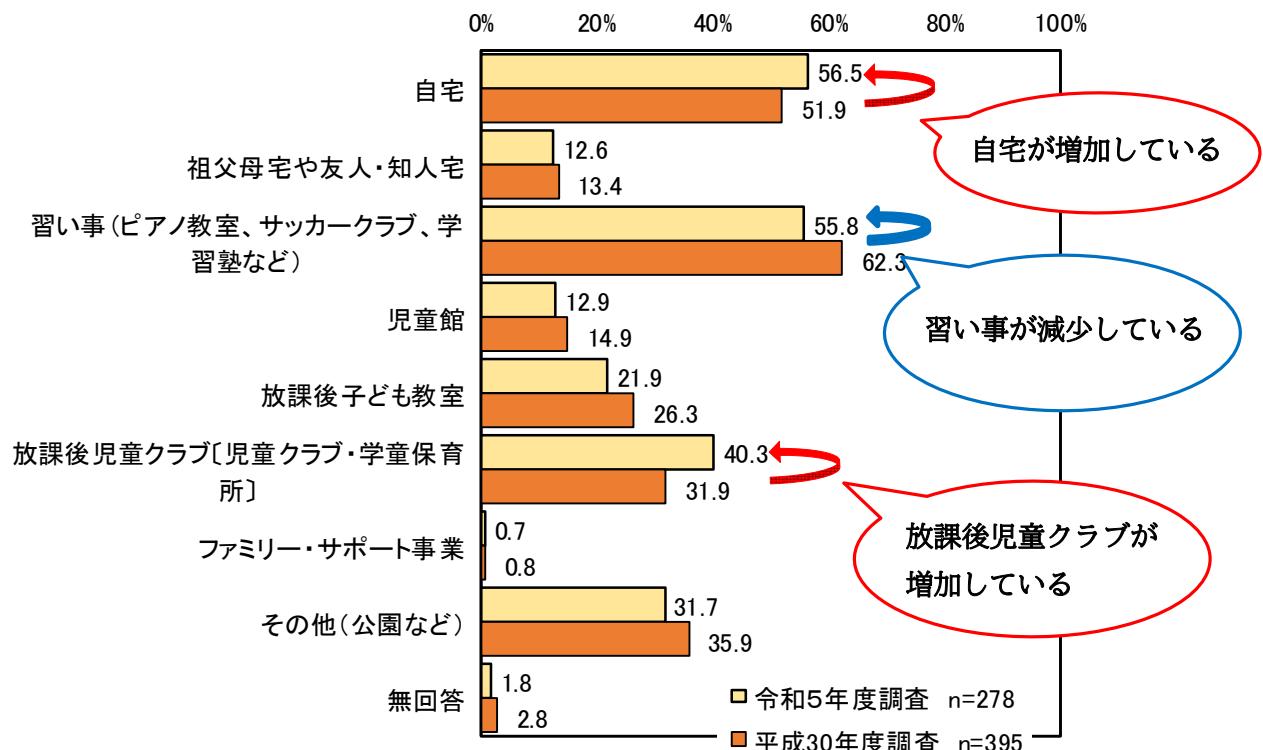
【(2) 小学生保護者調査】

⑤ 小学校低学年の子どもの放課後の過ごし方について（小学校1～3年生を抽出）

【P.95 間20】

- ・「自宅」の割合が56.5%で最も多く、次いで「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が55.8%、「放課後児童クラブ〔児童クラブ・学童保育所〕」の割合が40.3%、「その他（公園など）」の割合が31.7%、「放課後子ども教室」の割合が21.9%となっている。
- ・前回調査結果と比較すると、上位回答率の「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」の割合が下がっているが「自宅」の割合は増加している。また、「放課後児童クラブ〔児童クラブ・学童保育所〕」の割合が増加している。就学前児童と同様に、放課後の子どもの預かり機能のニーズが高いことがうかがえる。

◇小学校低学年時の放課後の過ごし方

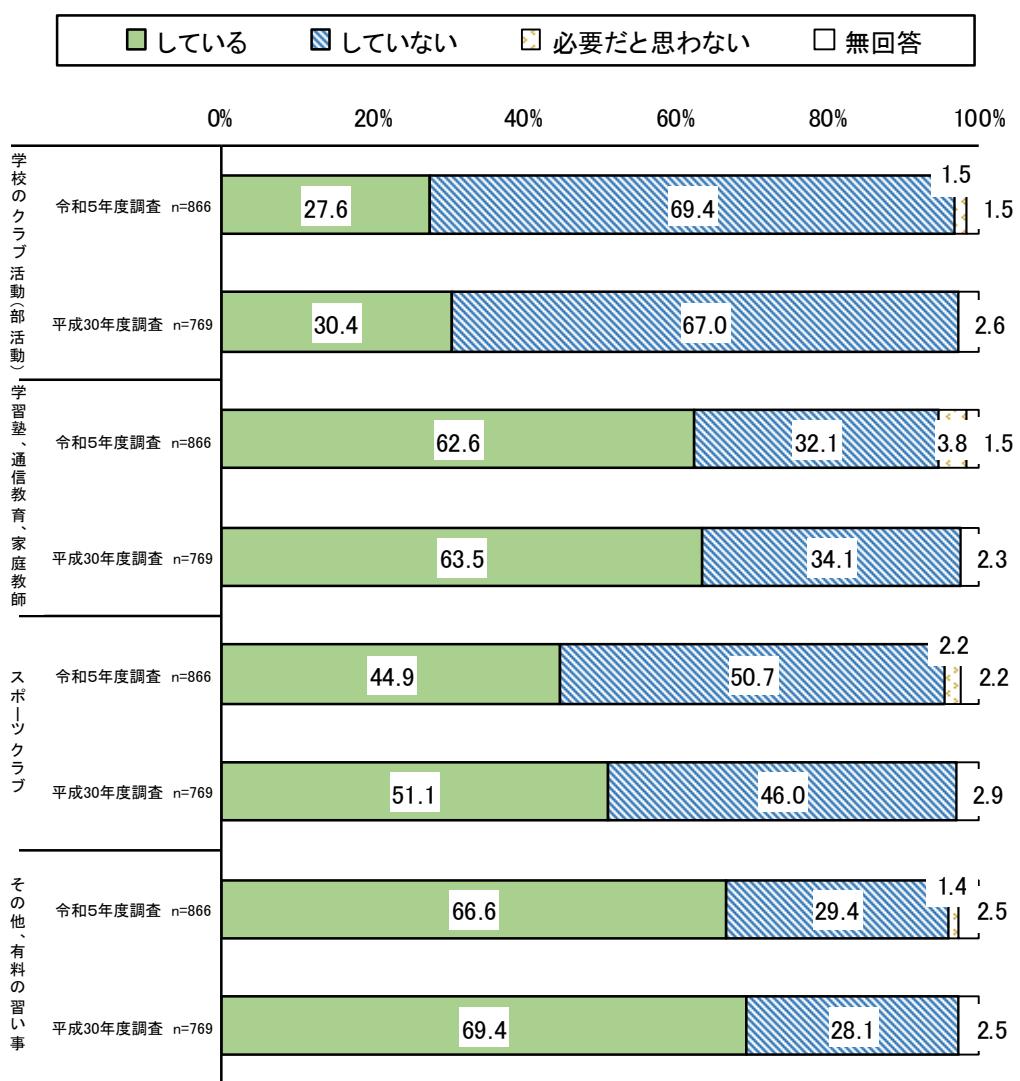


【(2) 小学生保護者調査】

⑥ クラブ活動、習い事等について【P.105 問26】

- 「学習塾・通信教育・家庭教師」は「している」の割合が62.6%と他と比べて多くなっている。一方、「学校のクラブ活動（部活動）」は「していない」の割合が69.4%と他と比べて多くなっている。
- 前回調査結果と比較すると、特にスポーツクラブで「している」が6.2ポイント減少している。

◇クラブ活動、習い事等について



※前回調査では「必要だと思わない」の選択肢はない。

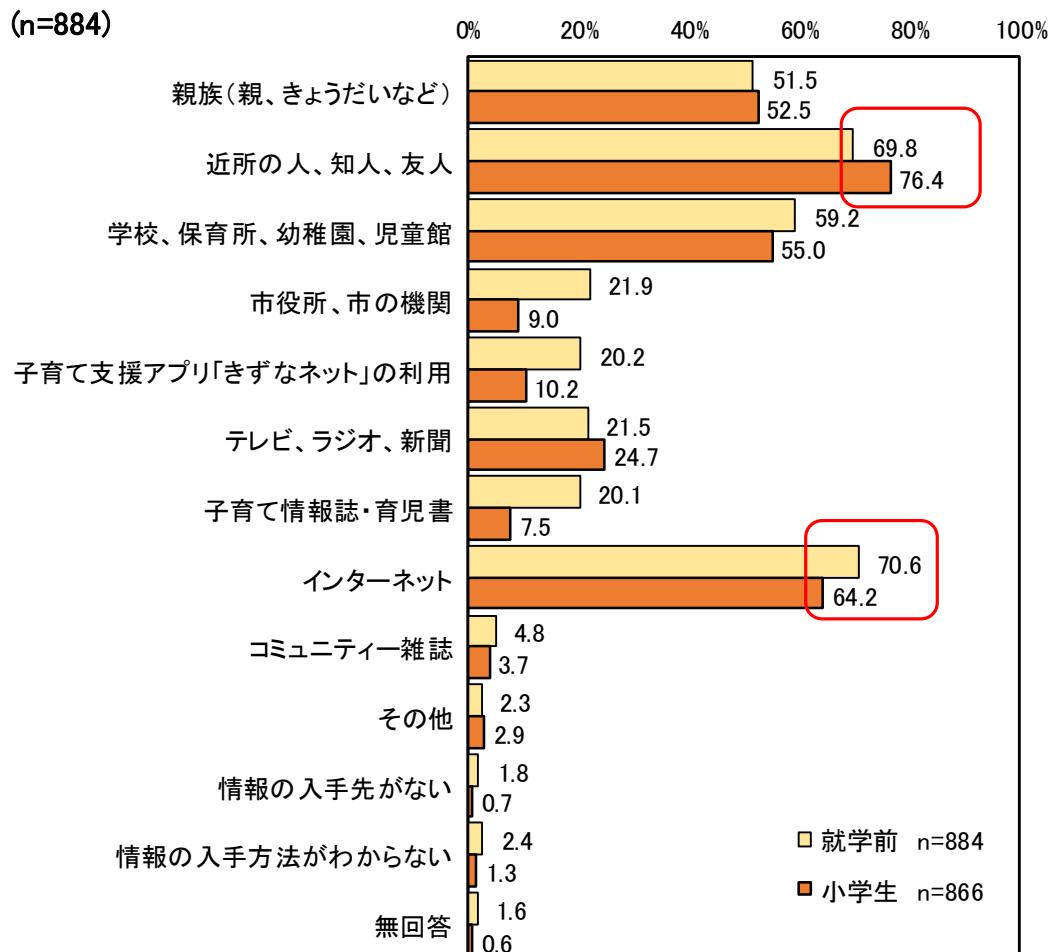
【(3) その他共通設問】

(3) その他共通設問

① 情報の入手について【P.99 就学前 問28、小学生 問22】

- ・就学前では、「インターネット」の割合が70.6%で最も多く、次いで「近所の人、知人、友人」の割合が69.8%、「学校、保育所、幼稚園、児童館」の割合が59.2%、「親族（親、きょうだいなど）」の割合が51.5%、「市役所、市の機関」の割合が21.9%となっている。
- ・小学生では、「近所の人、知人、友人」の割合が76.4%で最も多く、次いで「インターネット」の割合が64.2%、「学校、保育所、幼稚園、児童館」の割合が55.0%、「親族（親、きょうだいなど）」の割合が52.5%、「テレビ、ラジオ、新聞」の割合が24.7%となっている。
- ・就学前、小学生ともに、主な情報の入手手段は「近所の人、知人、友人」、「インターネット」であることがうかがえる。

◇情報の入手手段



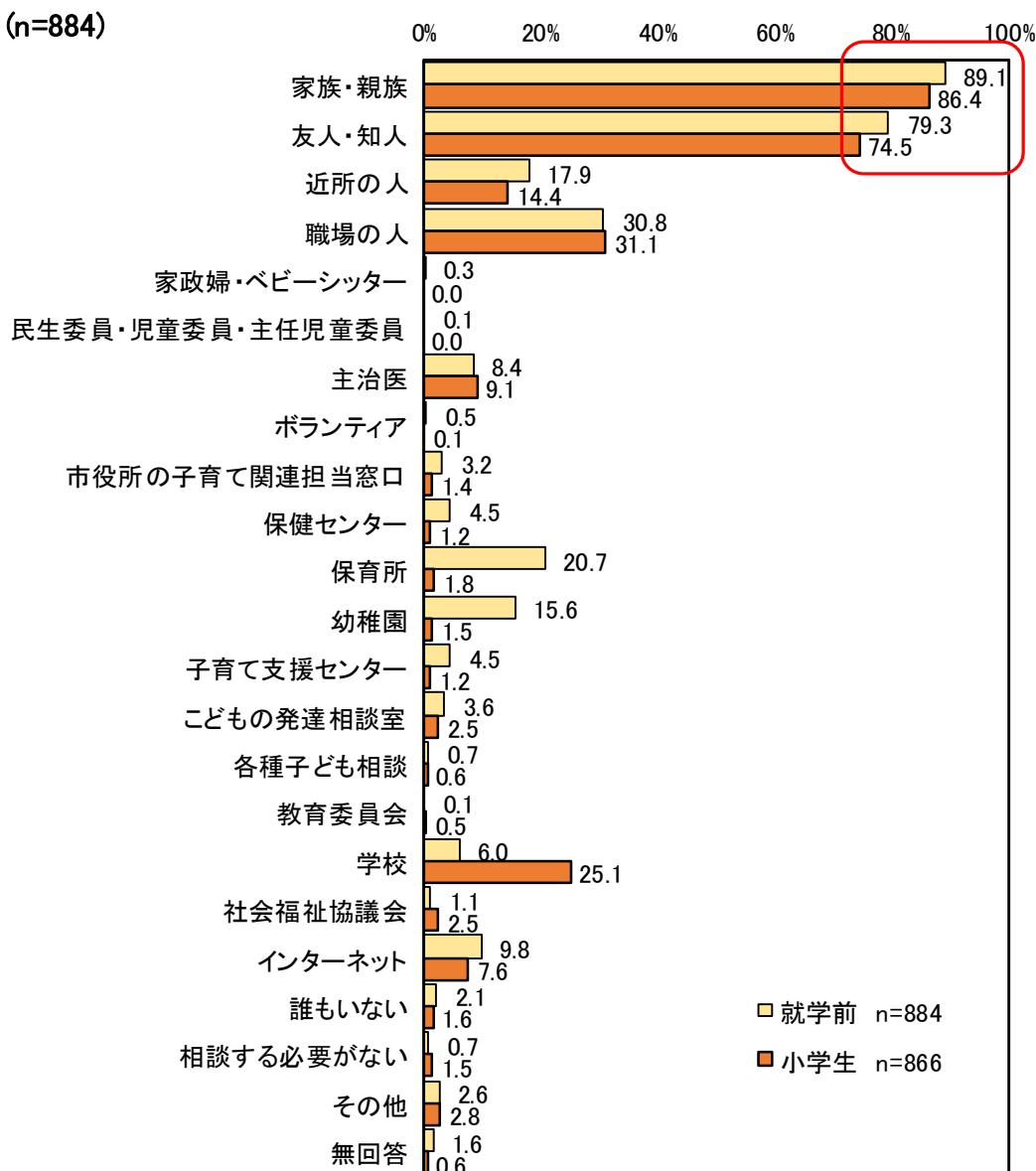
【(3) その他共通設問】

② 相談先について【P.106 就学前 問32、小学生 問17】

- ・就学前では、「家族・親族」の割合が89.1%で最も多く、次いで「友人・知人」の割合が79.3%、「職場の人」の割合が30.8%、「保育所」の割合が20.7%、「近所の人」の割合が17.9%となっている。
- ・小学生では、「家族・親族」の割合が86.4%で最も多く、次いで「友人・知人」の割合が74.5%、「職場の人」の割合が31.1%、「学校」の割合が25.1%、「近所の人」の割合が14.4%となっている。
- ・就学前、小学生ともに、「家族・親族」や「友人・知人」といった身近な人が主な相談先であることがうかがえる。

◇相談先

(n=884)

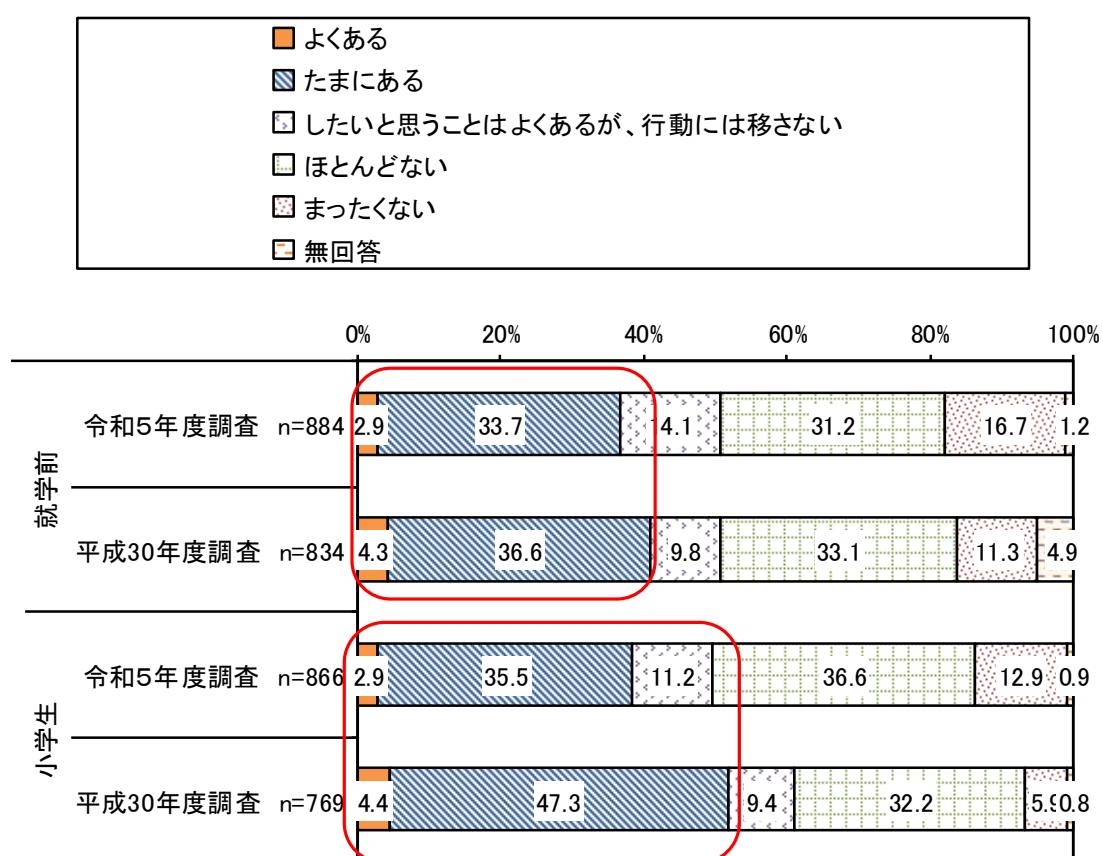


【(3) その他共通設問】

③ 子どもへの虐待について【P. 109 就学前 問34、小学生 問28】

- ・就学前では、「よくある」と「たまにある」を合わせた『ある』の割合が 36.6%、「したいと思うことはよくあるが、行動には移さない」の割合が 14.1%、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせた『ない』の割合が 47.9%となっている。
- ・前回調査結果と比較すると、『ある』の割合が 4.3 ポイント減少している。
- ・小学生では、「よくある」と「たまにある」を合わせた『ある』の割合が 38.4%、「したいと思うことはよくあるが、行動には移さない」の割合が 11.2%、「ほとんどない」と「まったくない」を合わせた『ない』の割合が 49.5%となっている。
- ・前回調査結果と比較すると、『ある』の割合が 13.3 ポイント減少している。
- ・就学前、小学生ともに、前回調査と比較して減少しているものの、子どもへの虐待につながる行動が『ある』保護者が 4割程度いることがうかがえる。

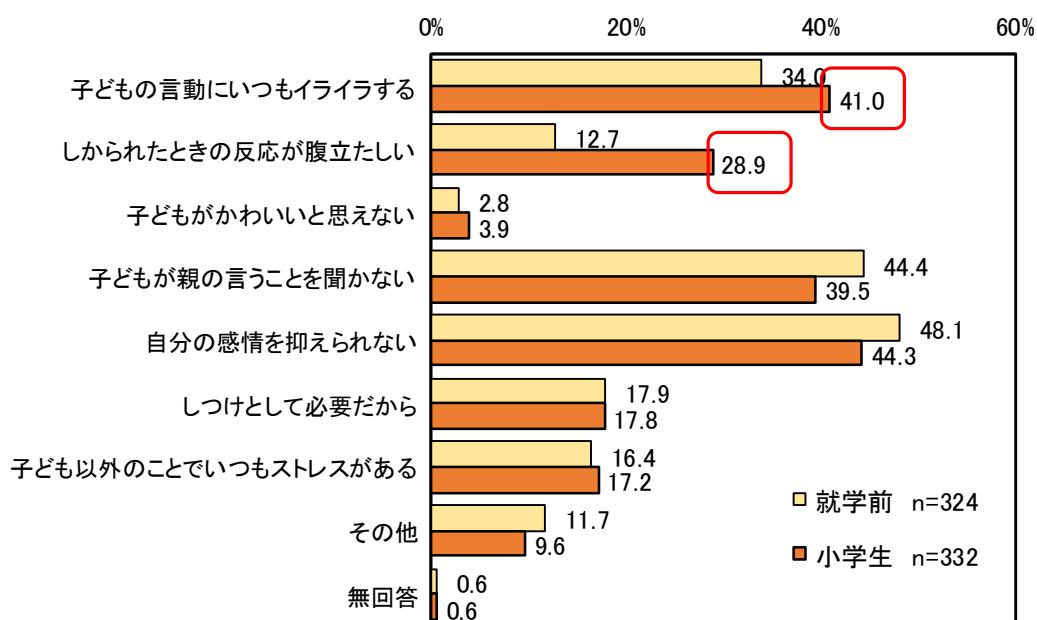
◇子どもに対して、思わずたたいたり、子どもの心を傷つけてしまうような言動をしたり、子どもの相手や世話をしないこと



【(3) その他共通設問】

- ・就学前では、「自分の感情を抑えられない」の割合が 48.1%で最も多く、次いで「子どもが親の言うことを聞かない」の割合が 44.4%、「子どもの言動にいつもイライラする」の割合が 34.0%、「しつけとして必要だから」の割合が 17.9%、「子ども以外のことでのいつもストレスがある」の割合が 16.4%となっている。
- ・小学生では、「自分の感情を抑えられない」の割合が 44.3%で最も多く、次いで「子どもの言動にいつもイライラする」の割合が 41.0%、「子どもが親の言うことを聞かない」の割合が 39.5%、「しかられたときの反応が腹立たしい」の割合が 28.9%、「しつけとして必要だから」の割合が 17.8%となっている。
- ・就学前に比べ、小学生では子どもが成長したことにより、子どもの言動や反応にいら立ちを感じるようになったと考えられる。

◇思わずたたいたり、子どもの心を傷つけてしまうような言動をしたり、子どもの相手や世話をしないことがある原因



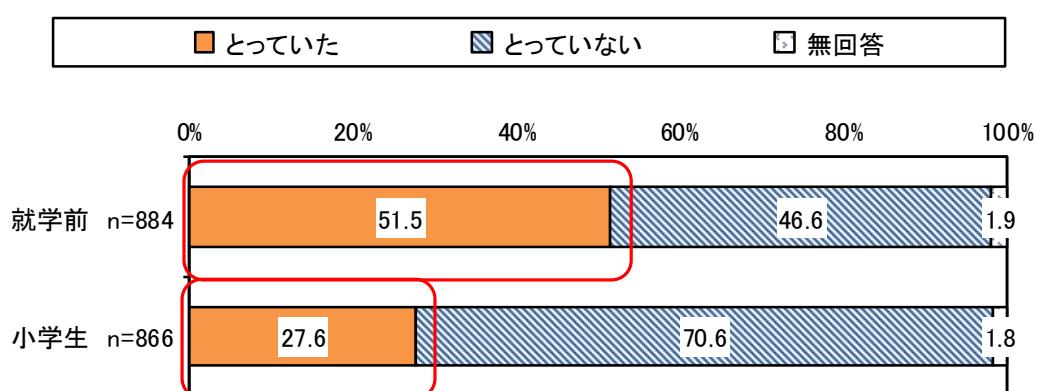
【(3) その他共通設問】

④ 育児休暇について【P.123 就学前 問48、小学生 問30】

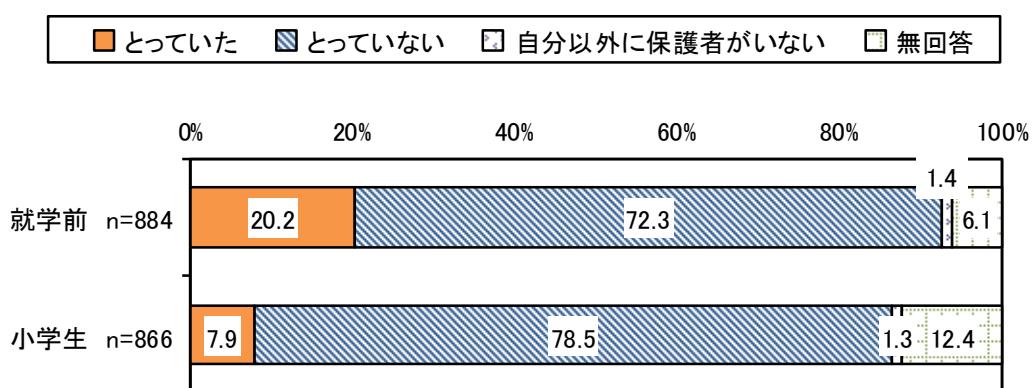
- ・「自分」の育児休暇の取得について、就学前では、「とっていた」の割合が 51.5%、「とっていない」の割合が 46.6%となっている。小学生では、「とっていた」の割合が 27.6%、「とっていない」の割合が 70.6%となっている。
- ・「自分以外」の育児休暇の取得について、就学前では、「とっていた」の割合が 20.2%、「とっていない」の割合が 72.3%となっている。小学生では、「とっていた」の割合が 7.9%、「とっていない」の割合が 78.5%となっている。
- ・小学生に比べ就学前で自分が育児休暇を「とっていた」と回答した人が多くなっており、小学生のお子さんが就学前児童だったころに比べて意識が変化していることがうかがえる。

◇お子さんが生まれてから今までの育児休暇の取得の有無

«自分»



«自分以外»

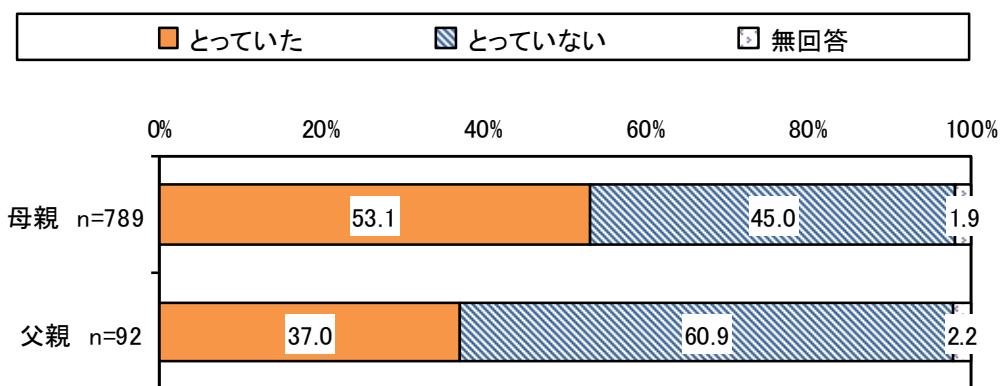


【(3) その他共通設問】

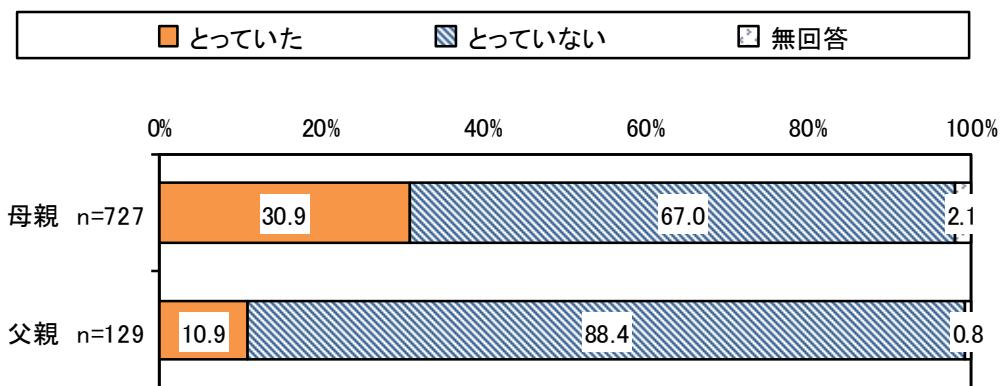
- ・「自分」の育児休暇の取得を母親・父親別にみると、就学前では、「とっていた」の割合について、母親では 53.1%、父親では 37.0% となっている。小学生では、「とっていた」の割合について、母親では 30.9%、父親では 10.9% となっている。小学生保護者に比べると、就学前児童保護者の方が母親、父親ともに育児休暇を「とっていた」の割合が多く、育児休暇の取得が進んでいることがうかがえる。

◇お子さんが生まれてから今までの育児休暇の取得の有無（父親・母親別）

«自分：就学前»



«自分：小学生»



※就学前、小学生共に「問 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。」とのクロス集計